こまざわ経済通信

発　行
駒澤大学経済学部
同　窓　会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1－23－1

卒業おめでとう！
同窓会に入会しよう！

経済学部同窓会会長
大場やすのぶ会長

ご卒業おめでとうございます。皆さんは大学で多くの友人を得、そして講義やゼミ、部活動やサークル活動を通して様々な人生訓を得たことと思います。それは真剣に物事を見つめ考えたときに、ふと思い出す羅針盤のように心の底に居続けるものです。私は議会人になってからランニングを始めました。歳とともに走り続ける苦しさが増します。その時に私が思い出すのはイギリスの宰相チャーチルの言葉です「あきらめるな、決して、決して、決して、決して」と。学窓を去りこれから人生という道を拓く皆さんに私から紹介したい言葉です。このように同じ学窓から巣立った者同士が、世代を越えて学び感じたことを共有して、後輩たちに伝えていく、それが同窓会の大きな役目の一つでもあります。皆さんには同窓会に入り、共に後輩たちを支え、大学の発展に寄与していただきたいと願います。

平成28年度の新任教員・退職教員

平成２８年３月には４名の先生が定年退職を迎えられます。また、新年度には２名の先生が就任します。経済学部は教授陣の世代交代と教育改革によって新しい時代に向かって大きく変貌しようとしています。

定年退職（平成２８年３月）

清水　　卓　教授（ヨーロッパ経済論：勤続３８年）
瀬戸岡　紘　教授（アメリカ経済論：勤続３９年）
友松　憲彦　教授（西洋経済史：勤続４５年）
谷敷　正光　教授（教育経済論：勤続４３年）

就任（平成２８年４月）

王　　穎琳　専任講師（中国経済論）
堀内　健一　専任講師（経済理論）

経済学部ゼミの思い出

谷　敷　　正　光 教授

白馬の隙（げき）を過ぐるがごとし。

昭和４７年４月駒澤大学に奉職しはやくも４３年が過ぎ、本年３月定年退職いたします。

これまでに講義として経済学概説、産業概説、教育経済論、商業実習、社会科教育法、商業科教育法、職業科教育法など経済学科目や教職の科目を担当しましたが、今日まで長い間講義したのは教育経済論と社会科教育法、商業科教育法です。

講師時代の私の研究室は７号館５階で、エレベータはないが広い研究室で、いつもゼミ生が来てお茶をしながら勉強していました。

経済学部のゼミはまだ「卒業研究」を作成し提出する義務もなくおおらかな制度でしたので、２年ゼミは小論文、３年ゼミは論文、４年ゼミは卒業論文の作成を義務とし、研究成果を「ゼミ論文集」に掲載していました。卒業論文を仕上げた後は、春合宿で「卒業論文発表大会」を催しました。春合宿は春とはいえまだ寒いため静岡県下田弓ヶ浜温泉、白浜温泉などの温泉につかりながら卒業論文発表大会とスポーツ大会を行っていました。７月は夏合宿で長野県立科高原、山梨県野辺山高原、清里高原など涼しい高原で午前中は研究活動、午後は野球大会、テニス大会などのスポーツ大会やハイキングを、合宿最後の夜はコンパを催し、各学年総がかりで歌あり、踊りあり、劇ありのお楽しみの芸術的な？出し物大会を行っていました。いつしかゼミ活動は「体育会系ゼミ」「歌って踊れるゼミ」へと進化？し、ＴＢＳラジオ局から出演の依頼がありました。番組は当時、若者に人気のあった「好奇心の大統領」で、その日のテーマは「体育会系谷敷ゼミ、歌って踊れるゼミつてどんなゼミ」でした。４年生から２年生まで全員出演し、大いに青春を謳歌しました。大人数のためＴＢＳスタジオには入り切らず、結局、本学の大学会館２階の会議室をスタジオにして当日生放送されました。千葉県千倉で地井武雄さんとテレビの旅の番組にも出演したり、この頃のゼミが一番活動的なゼミでした。

バブル経済がはじけ、長期の不況になってからは学生や保護者の経済的負担を考えてゼミ活動とゼミ合宿を大きく転換しました。特にゼミ合宿は「安」「近」「短」をモットーに、東京から近くて、安く宿泊できる施設で、短期間行う合宿に変え、経済的な負担がかからないように配慮しながら今日まで歩んできました。

最近、定年を迎えたためもあって、ゼミの卒業年度によっては「先生、久しぶりに集まって食事会をしませんか」と声がかかり、食事会が催され、様々な卒業年度のゼミ生に会う機会を得ました。参加してみると昭和５０年代に卒業したゼミ卒業生は年齢も５０歳を過ぎ、会社の取締役、部長など多士済々で、社会を支える重要な頼もしい人物に成長していました。卒業生の苦労話を聞きながら、中堅大学の卒業にもかかわらずよく頑張り抜いたなと思わず目頭が熱くなりました。

最後になりましたが、駒澤大学の教職員、卒業生、在校生の方々に大変お世話になりました。これまでのご厚情に熱く感謝いたします。

青木ヶ原樹海　天然記念物　富岳風穴。鳴沢氷穴周遊記念

高い見識・先進性・教育理念をもっていた駒大経済学部

瀬戸岡　紘 教授

経済学部着任当時、この教授会の高い見識に感心したものだった。二重の意味で。ひとつは、他大学・他学部と比較して学生を大人として扱っているなと感じたこと。なかでも科目選択の完璧なまでの自由さ。それは学科の壁さえこえて自由に選択し、規定の単位を取得したら卒業できるものだった。もうひとつは他大学に先がけて新機軸をだしていったこと。たとえば全国の大学に先がけて２年生からゼミを取れるようにしたこと。きたるべき国際化時代をにらんで全国のどの経済学部よりも多く外国事情関連科目を設置したこともそのひとつだった。

大学とは、教員が学生に教えこむ場ではなく、学生たちが知恵と力を出しあい自分たちで学んでいく場であろう。大学は、そういう者のために望まれる教育環境をそっと整備しておくものであろう。だが近年は、学生はややもすると子供扱いされる傾向に（たとえば科目選択に細かいルールやガイドが増えた）、改革があるとすれば他大学を後追いする形で進行していると感じられるなど、やや気がかりだが、みなさんはどうお感じだろうか。

K君の思い出

清水　卓 教授

彼は、当時在学６年、単位修得ゼロ、友人を求めて幾つもの部活動に参加したが、トラブルで再び孤立し、登校もできなくなった。本人も自分がアスペルガー症候群だと認識していた。しかし、強い向精神薬のせいか、漠とした姿で、一見して普通でないとわかった。ご両親が一度来校されて、幼少時から問題を起こし、手に負えないと苦痛を訴えておられた。彼が地元に帰ってきては周囲が困るといった雰囲気すら感じられた。心安らぐ家族という場すら持ちえない、彼の孤独の底知れぬ深さに私は打ちのめされた。結局、７年間在籍し、単位修得ゼロのまま、退学した。その後数年間、彼は自立を求め資格試験受験に悪戦苦闘していた。私が大学の役職で多忙になり、次第に対応がおろそかになった。そして電話連絡が途絶えた。半年後、実家に電話した。父親がでて、事故死したと告げられた。この一件以来、教員としての非力を悔い、学生を見る目が変わった。

継続は力なり

友松憲彦 教授

前任者の谷敷正光先生を引継ぎ同窓会の仕事に携わってきましたが、本年３月に退職となりますので、一言ご挨拶申しあげます。

経済学部同窓会は平成５年１１月２０日の第１回総会によって正式に発足しました。雨天のなか６００人の出席者があったと同窓会報は伝えており、当時の熱気を窺うことができます。それから２３年、会員の高齢化や財政難に直面しながら、同窓会は会員の親睦や交流の核となり、経済学部の教育を背後から支え、学内で確固たる地位を保持してきました。それを支えているのは、会員の経済学部に対する母校愛であると思います。昨年、本学で最も新しいグローバル・メディア・スタディーズ学部にも同窓会が結成されました。学部同窓会の意義については多言を要しないところです。こうした組織が座右の銘とすべきは「継続は力なり」という言葉です。歴史を刻むことによって生れる力を信じて、経済学部とともに同窓会が歩み続けることを願っています。

研究室訪問シリーズ

福　島　浩　治（専任講師、国際経済論担当、２０１５年就任）

２０１５年度より経済学部経済学科に着任しました福島浩治と申します。国際経済論、途上国経済論、東南アジア地域研究などに関心を寄せてこれまで研究をしてきました。学部講義では「国際経済論」を担当しており、現代経済を特徴づけるグローバリゼーションの構造的理解を促すことを主眼に、歴史、政策、理論の基礎的視点から読み解いていっています。リーマンショックによる世界金融危機、中国やブラジルなど新興国経済の台頭、アフリカ諸国の経済成長など変動期にある現代国際経済のダイナミズムを、学生がリアリティを持って把握でき、知的好奇心を刺激するような授業内容や構成に試行錯誤する日々です。プリンストン高等研究所のダニ・ロドリック教授の「世界経済の政治的トリレンマ」を批判的に検討しようとした講義では、２１世紀ポスト・グローバリゼーションの政治経済上の構想をめぐって、学生代表の何名かに持論を展開してもらいました。発表した学生も、それを聞いていた学生も、みな驚くほど真剣に考え、多様な意見からさまざまに思考をめぐらせていた様子が印象的です。２１世紀は知識社会とも呼ばれますが、知識偏重型の授業に陥ることなく、我々はどのような時代に生き、これからの未来社会をどのような理念と政策と行動のもとに築き上げるべきか、自らの頭で考えられるようになる手がかりとなる授業にしたいと考えています。

本年度、追加募集で始まったゼミナールは、２０１６年４月から本格始動します。現役ゼミ生と新ゼミ生との交流もすでに始まりました。毎年ゼミでは一年間の学習の集大成として海外研修旅行を企画実施する予定です。現役ゼミ生は、３月カンボジア研修旅行に向けて準備をスタートさせました。現地大学生との交流や国際機関の訪問など、一般的な観光コースではない経験、体験の機会が組み込まれています。費用の観点から１週間程度の行程ですが、渡航前の事前学習の内容検討から帰国後の報告書作成まで、学生が主体的にスケジュールを考案するなど成長がすでに見られます。また、駒沢キャンパスからほど近い場所に、カンボジアの農村女性の自立支援に、取り組んでいる団体があることを知りました。地域でさまざまに活動されている人たちとネットワークをつくり、国際協力やボランティア活動などを通じて、学生たちが積極的に行動しながら学習できる環境づくりに取り組みたいと考えています。

専門分野における研究課題のひとつは、「グローバル・サウス」という分析視角から現代国際経済研究を深め、現代世界を捉えるもう一つの理論的フレームワークを構築することです。かつては発展途上国に凝縮されてきたはずの格差や貧困問題は、グローバルな課題群へと拡散していることは誰の目にも明らかです。生存さえ危ぶまれるグローバル・サウスに属する人々は、アメリカや日本を例外とすることなく、世界人口の多数をしめさらに広がりを見せています。「南北問題」という地理的概念を越えた現状把握と現状打破のための理論が求められており、その先端的研究がグローバル・サウス研究です。イギリス、ドイツ、インド、フィリピンなどではグローバル・サウスという名称の研究機関が設立され始めています。地球環境の維持可能性の枠内で、国境を越えた人間と人間、人間と自然とが支配と搾取の関係性でも、「底辺にむけた競争」関係でもなく、共に生きることができる「共生経済」はいかにして実現可能なのか。こうした壮大な研究プロジェクトを射程に、一つひとつの基礎研究をしっかり積み上げていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

卒業生シリーズ

成長のキッカケをくれた母校

加　瀬　　正　和（会社・飲食店経営）

私にとって、駒澤大学のキャンパスで学んだ４年間は今の自分の基盤となっており、現在まで様々な経営をしていくうえで多くのキッカケをくれました。思い出ある母校、そしてお世話になった瀬戸岡ゼミ、経理研究所、総合情報センター、駒澤職員の方々にとても感謝しています。

２０００年４月、春の桜が残り僅かに舞い散るこの時期に入学式を迎え、初めて入る校舎と入学式の３体の仏像に迎えられ度肝を抜かれたのをよく覚えています。大学入試で満足していなかった自分は、他の大学に行った友人に負けたくない一心で躍起になっていました。とにかく大学に入ったら何でも良いから全力で挑戦してみようと心に決めていました。そのため、入学式の校舎内で配布されていた経理研主催の日商簿記検定講座を受け１級まで合格し、バンクーバーへの短期留学、ＩＴスキル向上に総合情報センターでのアルバイトなどを通して多くを学ばせて頂きました。また、カナダ短期留学で知り合った友人に、瀬戸岡ゼミが大変だがやり甲斐のある人気ゼミであると聞いて、瀬戸岡ゼミで学ぶことを決めました。瀬戸岡先生は、専門のアメリカ経済論を教えるだけではなく、学生は自分の好きなものを自発的に勉強することを推奨していました。サブゼミでは教科書選びから自分たちで行い、そして１年を通してチームで論文を書き終えました。この頃から何かを自発的に発信していくことに目覚め、瀬戸岡先生にも、自分の作ったワークショップなどをゼミの授業でやらせて貰える機会を作っていただきました。その経験から、自分も就職活動中に就職活動をする学生を支援する学生団体を創設して、様々な企業の経営者など駒沢キャンパスの校舎をお借りして、イベントや勉強会を行っておりました。

大学時代は、このような環境にも恵まれ、様々なことに挑戦できた４年間だったと思います。その御蔭で、卒業後、様々な人とのご縁もあり、数社の会社の創業を経験でき、若くして起業の経験もさせて頂きました。苦労も多々ありましたが、学生時代に学んだことを活かしいて邁進できました。現在は、自分の夢の１つであった自分のお店を持つという夢も達成でき三軒茶屋で、人気のタイ人シェフが作る本格タイ料理バルプアンを経営し、現在様々な雑誌で取り上げてもらえるようになりました。

今思うと、駒澤大学に入学して良かったと強く思っております。様々な方々にお世話になり、多くのことを学ぶキッカケを頂いた母校に感謝しております。

（平成１６年３月経済学科卒）

ゼ　ミ　紹　介

荒　木　ゼ　ミ

荒　木　勝　啓（教授、応用ミクロ経済学担当、1981年就任）

どのゼミに入り、何を学んだのかという質問は就職活動において必ず訊かれるといっても過言ではありません。なぜなら大学生活を通じて、あなたがどのような分野に関心を持っているのか、それに対してどのように取り組んだのかがわかるからです。私は昨年の９月に株式会社ＮＨＫメディアテクノロジーから内々定をいただきましたが、大学生活を通じてウェブをはじめとしたコンピュータ一般に関心・興味を持ったこと、そして実際にウェブ制作に必要な知識をどのように深めていったのかをきちんと伝えることができたというのが内定取得に至る１つの要因だと捉えています。だからこそ、ゼミ選びというのは非常に重要な選択だと考えています。

私はゼミ選びの際、以前から苦手に感じていた情報分野を克服したいと考え、コンピュータに対する知識が深められ、なおかつ実践的に自分で何かを作るゼミに所属したいと考えていました。

荒木ゼミでは２年次にウェブコンテンツ制作に必要な知識や技術（イラストレーター、フォトショップ、ＨＴＭＬやＣＳＳといったインターネット上に内容を反映させるための技術）を学び、３～４年次ではエクセルＶＢＡを用いて、航空券の発券を想定したシステムや経済シミュレーションシステムを作成しました。

また私は教授に頼んで個別にウェブについて詳しく学び、ウェブデザイン技能検定という国家検定２級を取得することができました。

こうした資格やゼミを通じて作成した成果物は、大学生活を通じて自分が関心を持って取り組んできたことや努力の結果を伝えるのに直接的なイメージを持たせやすく、就活の面接で、話だけでは伝えきれない重みを持たせることができました。

こうした経験から、この荒木ゼミはＩＴ分野に興味があり、デザインをはじめとしたものづくりに興味があり、大学在学中に何かしらの資格を取得したい方には非常によいゼミだと思います。

皆さんがゼミを通じて充実した大学生活を送れることを祈っています。

山本瑠璃（経済学科４年）

同窓会後援ソフトボール大会

第２５回経済学部ゼミ対抗ソフトボール大会が、肌寒くも爽やかな秋晴れの１０月１５日に開催されました。大会に参加する選手たちは開会式の始まる９時よりも早くに集合し、寒さを吹き飛ばすようにキャッチボール、素振り、守備練習などで体を温め、試合に備えていました。

開会式前にグローブが到着しないトラブルにより、開始時刻が予定より４５分遅れたものの、前年のように途中での雨が降ることも無く、ソフトボール大会はおおむね順調に進行しました。どのゼミのチームも健闘し、素晴らしい試合ばかりの良い大会であったと思います。

さて、大会の結果ですが決勝戦は延長戦の末、６対１で松本ゼミが制して優勝、準優勝は吉田真広ゼミ、３位は石川祐二ゼミと村松ゼミ、敢闘賞は番場ゼミとなりました。

今年のソフトボール大会は、前年度の雨による大会中止の無念を晴らすような熱いものとなりました。来年度の大会も天候に恵まれ、皆で団結して絆を深め、他ゼミとの交流が深まる素晴らしいものになることを願います。

長吉原一晴（深見ゼミ２年）

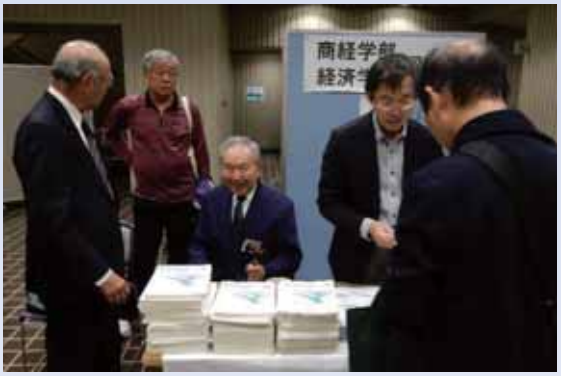
経済学部同窓会もホームカミングデーに参加

２０１５年１０月２５日、卒業生を母校に迎えるホームカミングデーが開催されました。廣瀬良弘学長の講演、落語家の三遊亭金の助さんの落語会、吹奏楽部、空手道部、応援指導部ブルーペガサスが歓迎するなか、およそ１０００人の卒業生が懐かしいキャンパスに訪れました。

懇親パーティは学生食堂でおこなわれ、あちこちにビールやワインのグラスを片手にした商経学部や経済学部卒業生の歓談の輪がひろがりました。

例年のように経済学部同窓会もブースを設置し、「こまざわ経済通信」や経済学部研究誌『経済学論集』を配布し、好評をいただきました。

ホームカミングデーは毎年秋に開催され、すべての卒業生に開かれたオープンな催しです。今年も多数の卒業生のご参加をお待ちしています。



同窓会事務局からのお知らせ

同窓会組織の強化にご協力ください

同級生、ゼミやサークルの仲間、地域のお知り合いで「経済学部同窓会」に加入していない方がおられましたらご紹介ください。未加入の方に事務局から入会案内をお送りします。

「こまざわ経済通信」の原稿募集

同窓会報の充実のため原稿を募集しています。積極的なご投稿をお願い致します。

・論題：自由
・字数：８００字以内
・送付先：駒澤大学経済学部同窓会事務局（下記）
　原稿の採否は事務局にご一任ください。

役員を募集しています

ボランティアで同窓会の仕事をしていただける方を募集しています。
軽い仕事なのでご負担になることはありません。
仲間と楽しみながら、同窓会と経済学部の発展ために貢献できます。
有志の方は事務局までご連絡ください。

経済学部同窓会事務局（経済事務室内）
〒１５４－８５２５　東京都世田谷区駒沢１－２３－１
電話：０３－３４１８－９３４３